

すべての人のための修業学習

https://www.lapprenti.com/articles/article_auto.asp?news_id=1347&one=1

できるだけ多くの若者に養成と雇用を提供することが使命である修業学習の改革は、修業学習の担い手と専門家と一緒に企画されなければなりません。州、諮問審議会、組合、専門職会議所、学校、修業生養成センター(CFA)で、政府と協議しながら、その場合に構築に向けて活動しています。

協議は順調に進みます

行き詰って後退している州については、前線復帰させるのは諮問審議会の役割です。職人会議所と商業会議所は協力してマニフェストに非常によく似た公式発表を公開しています。商事裁判所ネットワークでは「協議に積極的に参加し、配属の中心にあつて修業生と企業とを再配置することを目指して、要求を実現するという方針で具体的な提案を創ります」と掲示しています。

政府との協議で取り交わされた提案の詳細はわかりませんが、その結果はあまり思いやりのあるものではありません！

このマニフェストの声明文の幾つかはそのことを物語っています。

- 「若者と企業に「修業学習のことを考える」という望みを与える。そのことがすでに修業学習である」
- 「企業が修業生を選定するために連れていき、修業生が企業を見つけるために連れていく:これが修業学習そのものである」
- 「将来のために養成の措置を下見して予算化する:このことが明らかに修業学習である」

いつも修業学習だ

ミュリエル・ペニコー、すなわち関係資料の責任者のシルビー・ブリュウネの側近のうちの誰かがその人たちの能力に疑念を表明したのでしょうか？ 慇懃無礼な侮辱に対する返答であることは明らかです。

- 「企業と対話ができるようにすること、その聞き手になること、そして競争力の挑戦に応えるために改善の道に気付くこと:これがいつも修業学習である」
- 「修業学習の修了時に一緒にいて専門職に入ることを手助けすること:それもまた、そしていつもの修業学習だ！」

ミュリエル・ペニコーは彼女自身それを認めるのでしょうか？ 不幸な側面がすべてを奪い去ることがあります。かくも緊張が激しくなります。

「卓越性に至る道と徳の高い制度」

幸運なことに、結局のところ、商事会議所は「修業学習は仕組みではなく、卓越性に至る道であり徳の高い制度である」と述べて祝福しています。もっと合意で成立する契約です。

国外への道

この協議が首尾よく進むために政府によって採用された方法を自問しています。先立つミッションの労働大臣の成功は外交的手腕によらなければならない必然的なものではありません。この流れでフランスにおける修業学習に専念するために、やがて個人に留まることはなく、州を越え、職人会議所を越え、商事会議所を越えるでしょう。

われわれの修業生を育成するためにスイスにも出かけなければならないのでしょうか？ スイス経済連邦省の会長のヨハン N シュナイダー・アマン顧問は、精度が求められる職人仕事(チーズ、チョコレート)に惹きつけられた修業生を自然に受け入れる準備ができていると考えています。このマニフェストが修業学習にとっての集団活動を非常に肯定的な総括をかなりはっきりと示しているとしても、フランスの若者の 7%を雇用することに成功しているこの徳の高い制度、この卓越性に至る道を改善するために元々の 1 つあるいは 2 つの提案がおそらく欠けていたでしょう。

その他に、養成も免状も雇用もない 180 万人の若者は、これに入ることを幸せと考えるでしょう。革命に非常によく似ている形をとっていますが、しかし恐らくはミュリエル・ペニコーにとって大切なコペルニクス的改革ではなく、むしろ革命初年のバリケードの革命でしょう。

そして結果のマニフェストとして

「あらゆる場所での修業学習！ すべての人のための修業学習！ すべての人と共にある修業学習！ 」

a la Bastiiiilleuuuu ! (バステューユへ、訳注、1789 年 7 月 14 日のフランス大革命の発端となった監獄襲撃事件の場所の名称)